



環境未来都市としての富山市の取り組み

富山市環境部長 和田 秀俊

富山市の概況

富山市の概要

総面積: 1,241.85km² (県庁所在都市では2番目の広さ)
 人口: 421,953人 (2010年国勢調査)
 世帯数: 159,151世帯 (2010年国勢調査)
 特徴: 海拔0mの富山湾から標高2,986mの水晶岳までの

自然豊かな多様な地形
 森林面積が市域の約7割
 包蔵水力全国第2位 (富山県)
 地熱資源量全国第2位 (富山県)

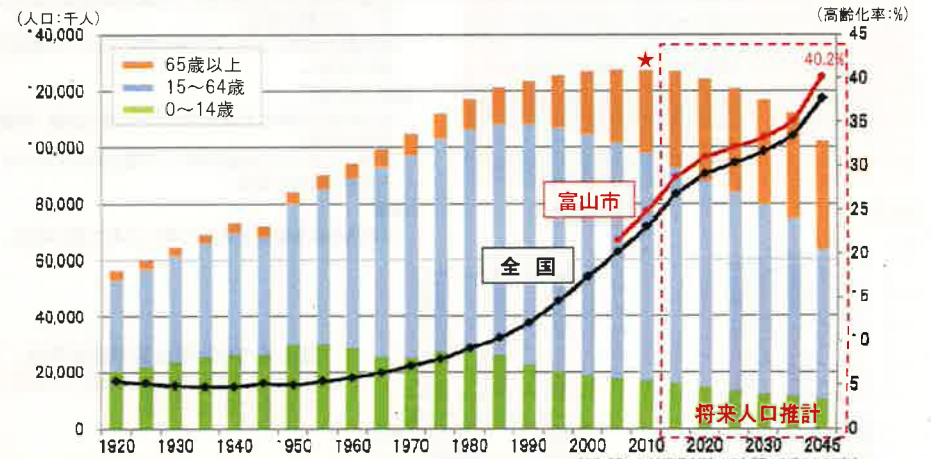


富山駅上空からみた市街地



都市特性 ~人口減少と超高齢化~

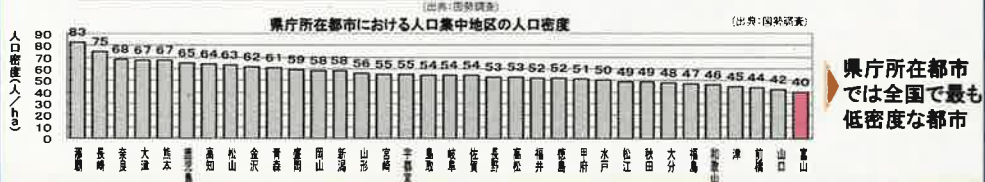
日本の総人口は2010年をピークに減少に転じ、高齢化率は急激に上昇する見込み。特に地方都市においては、激しい人口減少と高齢化に陥ることから、20年・30年先を見据えた、**将来世代に責任が持てる「持続可能な都市経営・まちづくり」が必要**



都市特性 ～市街地の外延的拡大～

高い道路整備率や強い戸建て志向等を背景に、市街地が外延的に拡大を続け、DID(人口集中地区)の面積は過去35年間で約2倍に増加。ごみ収集や除雪等にかかる**都市管理コストの上昇**や**中心市街地の衰退**が懸念される。

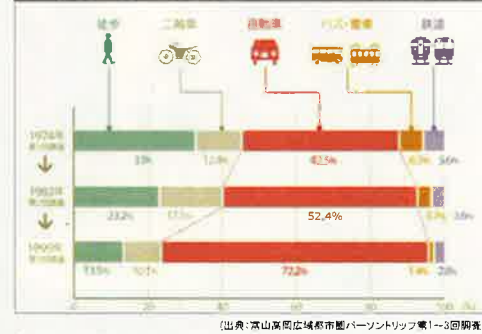
市街地の面積の拡大と人口密度の推移



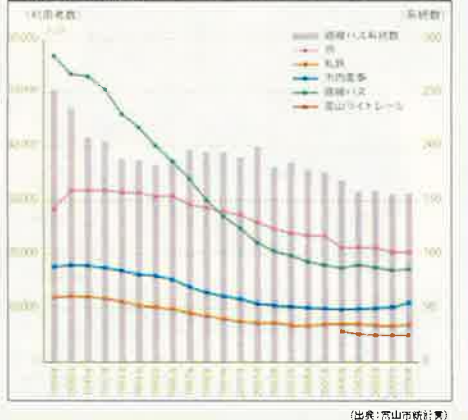
都市特性 ～過度な自動車依存と公共交通の衰退～

富山県の一世帯あたりの自動車保有台数は全国第2位(1.72台/1世帯当たり)で自動車の交通手段分担率は全目的で7割を超えるなど、過度に自動車に依存。一方で、公共交通の衰退は著しく、「車を自由に使えない人」にとって極めて暮らしにくいまちを形成。

交通手段分担率(全目的分担率)



公共交通の利用者数



中核都市圏では全国で最も高い自動車分担率

都市特性 ～CO2排出量～

CO2排出量は、産業、家庭、業務・その他、運輸の4部門合計で1990年から2010年までに約1.1%増加

富山市の産業別CO2排出量(森林吸収量を除く)

部門	2005年(平17)	2010年(平22)	増減率
エネルギー総量	45.9	36.4	-20.7%
産業	11,491.2	11,237.8	-2.2%
家庭	709.3	697.8	-1.6%
業務・その他	643.5	542.4	-15.9%
運輸	960.1	915.7	-4.6%
エネルギー総CO2(工業プロセス、消費物)	24.6	23.9	-2.8%
CH4, N2O	78.8	73.0	-7.4%
代替フロンガス(CFC, HCFC)	48.3	48.3	0.0%
計	4,219.8	3,898.9	-7.6%

＜CO2排出量の増加要因(1990年と2010年の比較)＞

- 家庭**
- 機器の大型化・多様化等により家庭用機器のエネルギー消費量が増加。
 - 世帯数の増加により、電力等のエネルギー消費が大幅に増加し。
- 業務・その他**
- 事務所や小売等の延床面積の増加に伴う空調・照明設備の増加。
 - オフィスのOA化の進展等による電力等のエネルギー消費の大幅な増加。
- 運輸**
- 自家用車の交通需要の拡大等による大幅に増加。

富山市



全国



富山市のCO2排出量の増加率は、業務・その他、運輸の2部門で全国平均を上回っている。

目指す都市像 ～コンパクトなまちづくり～

鉄軌道をはじめとする公共交通を活性化させ、その沿線に居住、商業、業務、文化等の都市の諸機能を集積させることにより、**公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり**を実現

＜概念図＞

富山市が目指す「お団子と串」の都市構造

- 串：一定水準以上のサービスレベルの公共交通
- お団子：串で結ばれた徒歩圏

＜実現するための3本柱＞

- 公共交通の活性化
- 公共交通沿線地区への居住促進
- 中心市街地の活性化



取り組みの足跡

コンパクトなまちづくり ～公共交通の活性化と都市機能の集積～



《公共交通の活性化》

- JR富山港線廃止～LRT化（開業日：平成18年4月29日）
- 市内電車環状線化事業（開業日：平成21年12月23日）
- 路面電車の南北接続



《都市機能の集積》

■ 中心市街地活性化基本計画

- ▶▶ 第1期計画（平成19年2月8日認定 全国第1号認定）
 戦略：コンパクトなまちづくりにおける拠点づくりを、最も都市機能が集積した徒歩圏域である中心市街地においてまず行う
 計画期間：平成19年2月～平成24年3月
- ▶▶ 第2期計画（平成24年3月29日認定）
 戦略：公共投資を呼び水に、民間の投資意欲を促す市民が主役となる体制や仕組みづくりを構築する
 計画期間：平成24年4月～平成29年3月



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-7-

環境政策の評価



■ 環境モデル都市の選定（平成20年7月22日）

目的：温室効果ガスの大幅削減など高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市を選定し、世界の先例となる「低炭素社会」への転換を進める
 選定理由：公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを核としたCO2削減計画について評価を受けた

▶▶ 富山市環境モデル都市行動計画

第1期計画：平成21年4月～平成26年3月
 第2期計画：平成26年4月～平成30年3月



■ 環境未来都市の選定（平成23年12月22日）

目的：世界に類のない成功事例を創出するとともに、その成功事例を国内外に普及展開することを通じて、新産業の創出や地域活性化など、我が国全体の持続可能な経済社会構造の実現する

選定理由：LRTなどの公共交通を軸としてコンパクトシティを目指す戦略的な提案であり、地方都市の抱える課題の解決モデルになり得る

▶▶ 富山市環境未来都市計画

第1期計画：平成24年5月～平成29年3月



■ SE4ALLエネルギー効率改善都市の選定（平成26年9月23日）

目的：国際連合のSE4ALLが提唱する3つの目標の達成を目指すもの

選定理由：環境未来都市や環境モデル都市としてこれまで取り組んできた実績や、将来的にエネルギーの効率の改善が期待できる

▶▶ SE4ALLアクションプラン策定中



国連会合での市長スピーチ

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-8-

環境モデル都市行動計画の概要と取組み状況

環境モデル都市選定

環境モデル都市に選定 (平成20年7月22日)

世界の先例となる「低炭素社会」への転換を進め、国際社会を先導

《目的》

- 我が国を低炭素社会に転換していくためには、ライフスタイル、都市や交通のあり方など社会の仕組みを根本から変えることが必要。
- 「環境モデル都市」は、今後目指すべき低炭素社会の姿を具体的にわかりやすく示すため、温室効果ガスの大幅削減など高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする都市を選定し、その実現を支援。
- 市民や地元企業の参加など地域一丸となった底力の発揮により低炭素型の地域モデルを実現。

《選定結果》

募集…平成20年4月11日から5月21日、82件(89団体)からの応募

環境モデル都市(6都市)

- 大都市 横浜市、北九州市
- 地方中心都市 帯広市、**富山市**
- 小規模市町村 下川町、水俣市

候補都市から環境モデル都市に(7都市) (平成21年1月22日)

- 大都市 京都市、堺市
- 地方中心都市 飯田市、豊田市
- 小規模市町村 橋原町、宮古島市
- 東京特別区 千代田区

視点 ①温室効果ガスの大幅な削減 ②先導性・モデル性 ③地域適応性 ④実現可能性 ⑤持続性

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを核としたCO2削減計画が評価された。

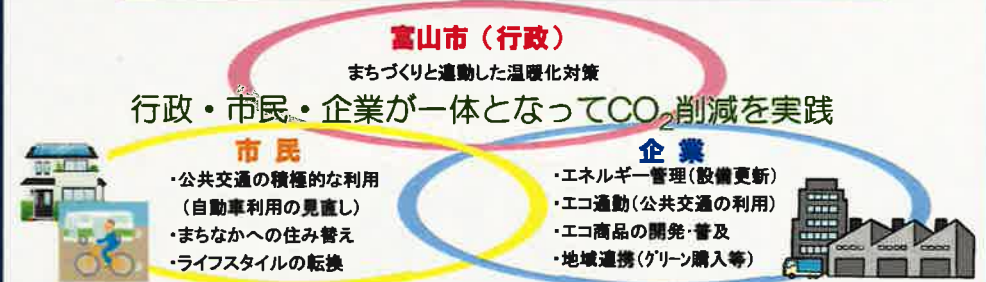
アクションプラン(富山市環境モデル都市行動計画)の策定(平成21年3月)

環境モデル都市行動計画の策定 ~CO2削減の進め方と削減目標~

富山市環境モデル都市行動計画 ~コンパクトシティ戦略によるCO2削減計画~

低炭素社会の実現に向け先駆的な取組みにチャレンジ 平成21年3月策定

公共交通を軸とした拠点集中型のコンパクトなまちづくり



CO2削減に向けた取組み方針		中期目標(2030年)	長期目標(2050年)
①公共交通の活性化の推進	運輸	2005年比 30%減	2005年比 50%減
②中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進	家屋		
③コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進	業務		
④コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進	産業		

第1次環境モデル都市行動計画 ~平成21年3月策定~

《取組の全体像》

1 公共交通の活性化の推進	1) 公共交通の利便性の向上	(1-a)LRTネットワークの形成 (1-b)公共交通の基盤整備	
	2) 公共交通の利用促進・交通行動の転換	(1-c)公共交通の利用促進 (1-d)交通行動の転換	
	2 中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進	1) 都心及び公共交通沿線居住の推進	(2-a)都心及び公共交通沿線居住の推進
		2) 都心及び地域拠点の育成	(2-b)中心市街地の活性化 (2-c)地域拠点の育成
3 コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進		1) 低炭素住宅の普及	(3-a)住宅の性能向上 (3-b)新エネルギーの導入 (3-c)公共交通沿線の宅地開発
		2) エコライフの普及	(3-d)省エネルギー意識の啓発・啓蒙
	4 コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進	1) 自動車利用の見直し	(4-a)自動車利用の見直し (4-b)省エネルギー意識の啓発・啓蒙
		2) オフィス等の低炭素化	(4-c)オフィスの低炭素化 (4-d)富山市地球温暖化防止実行計画の推進
3) 生産活動における新エネルギーの普及・転換や省エネルギー型施設・設備の導入		(4-e)新エネルギーの普及・転換 (4-f)省エネルギー型施設・設備の導入 (4-g)廃棄物の有効活用 (4-h)廃棄物の減量化	
4) 農林水産業の振興		(4-i)森林資源の管理 (4-j)畜産・企業のボランティアによる森林の保全 (4-k)地産地消の推進	

第2次環境モデル都市行動計画 ~平成26年3月策定~

平成21年度~25年度の取組を踏まえ、平成26年度~30年度の第2次計画を策定。
4つの取組方針やCO2排出削減目標は継続。

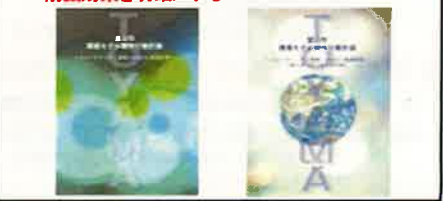
《取組数》

	第1次	第2次
1 公共交通の活性化の推進	18	20
2 中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進	17	16
3 コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進	9	9
4 コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進	28	29
合計	72	74

《排出量の推移》



基準年や排出係数を変更しないことで取組による削減効果を明確にする



公共交通の活性化の推進 ～富山ライトレールの整備～

利用者の減少が続いていたJR富山港線(鉄道)を公設民営の考え方を導入し、日本初の本格的LRTシステムに蘇らせた取り組み

<路線概要>

- 開業日：平成18年4月29日
- 延長：7.6km
(鉄道区間6.5km、軌道区間1.1km)
- 電停数：13
- 車両数：7編成(2両1編成)
- 所要時間：約25分(富山駅北-岩瀬浜)

<運行サービスの向上等>

運行間隔の改善、新駅の設置、低床車両の導入、ICカードの採用、バリアフリー化、アテンダントの配置、フィーダーバスの運行等

日本初の本格的LRTとして再生



▲旧JR富山港線

▲富山ライトレール(愛称ポートルム)



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -13-

公共交通の活性化の推進 ～富山ライトレールの整備～

《富山ライトレールの整備概要》

■ 運行サービスの向上

	旧JR富山港線	富山ライトレール
運行間隔	30～60分	15分(ラッシュ時は10分)
始発・終電	5時台・21時台	5時台・23時台
駅数	9駅(富山駅除く)	13電停
車両	鉄道車両	全低床車両 運賃は200円均一制に。

■ 車両の低床化と電停のバリアフリー化



■ アテンダントの配置(H22.8～)



■ フィーダーバスの運行



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

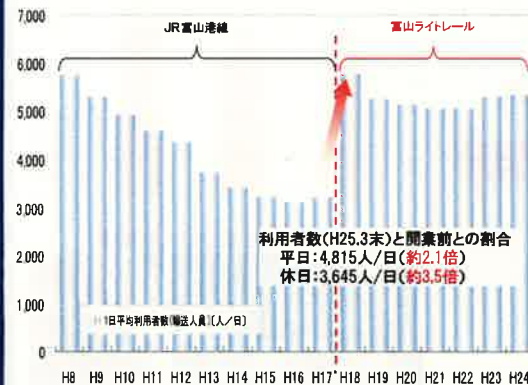
FUTURE CITY TOYAMA -14-

公共交通の活性化の推進 ～富山ライトレールの整備～

《富山ライトレールの整備効果》

① 利用者数の大幅な増加

➡ 開業前と比較して、利用者数は平日で **約2.1倍**、休日で **約3.5倍** へと大幅に増加



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

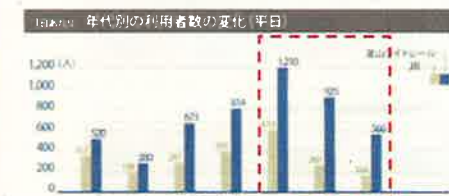
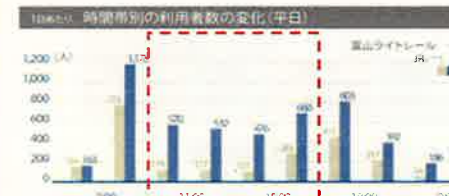
FUTURE CITY TOYAMA -15-

公共交通の活性化の推進 ～富山ライトレールの整備～

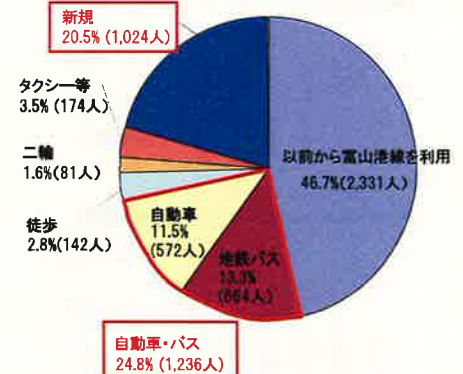
《富山ライトレールの整備効果》

② ライフスタイルの変化(健康づくりに寄与)

➡ 日中の高齢者の利用が増加
(それまで歩かなかった高齢者等が乗降客の2割を占める)



【富山ライトレール利用者の以前の利用交通手段(平日)】



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -16-

公共交通の活性化の推進 ～市内電車環状線化事業～

中心市街地活性化と都心地区の回遊性の強化を目的に、市内電車を一部延伸

- ・日本初の上下分離方式の導入
- ・魅力ある都市景観の構築に向けた道路空間との一体的な整備

<路線概要>

- 開業日：平成21年12月23日
- 延長：約0.9km（環状線区間約3.4km）
- 電停：延伸区間に3箇所新設
- 車両：新型低床車両を3編成導入



▲市内電車環状線(愛称:セントラム)

利用者数:休日2,805人/日
平日1,958人/日



公共交通の活性化の推進 ～市内電車環状線化事業～

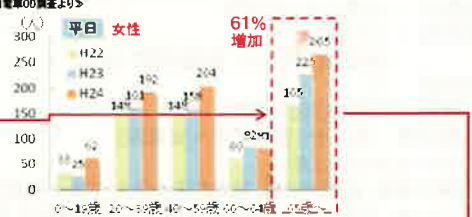
<<富山ライトレールの整備効果>>

- 環状線利用者は女性が約7割を占めるとともに、平日では女性の高齢者の利用が大きく増加するなど、高齢者の女性を中心に環状線が日常の移動手段として定着してきている。

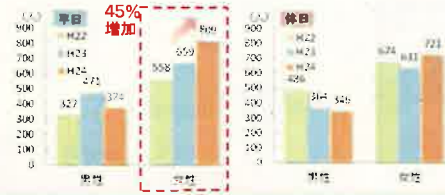
【環状線利用者の性別】
<<H24環状線利用者アンケート調査より>>



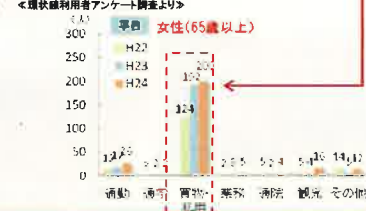
【年代別環状線利用者の推移(平日・女性)】
<<市内電車OD調査より>>



【男女別利用者数の推移】<<市内電車OD調査より>>



【環状線利用目的(平日・65歳以上の女性)】
<<環状線利用者アンケート調査より>>



公共交通の活性化の推進 ～市内電車環状線化事業～

<<富山ライトレールの整備効果>>

- 環状線利用者のうち中心市街地で2時間以上滞在する人、1日あたり1万円以上の消費をする人の割合が増加している
- 休日の環状線利用者は自動車利用者に比べ、平均滞在時間や来街回数、消費金額が多い

【環状線利用者の中心市街地での滞在時間の推移】
<<環状線利用者アンケート調査より>>



【環状線利用者の中心市街地での消費金額の推移】



【買物・飲食の際の平均滞在時間(分/日)】

平日		休日	
自動車	環状線	自動車	環状線
96分	96分	113分	124分

【中心市街地への来街頻度と消費金額】
買物目的の平均来街頻度(回/月)

平日		休日	
自動車	環状線	自動車	環状線
2.5回	6.6回	1.8回	6.0回

平均消費金額(円/日・人)

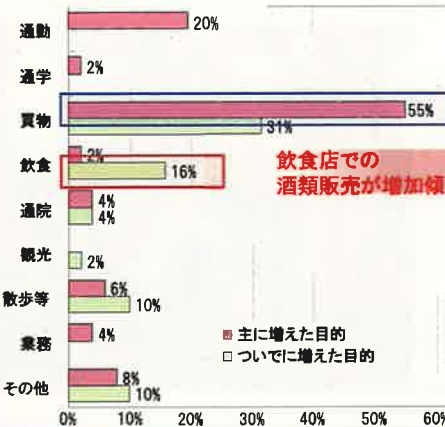
平日		休日	
自動車	環状線	自動車	環状線
¥11,489	¥11,337	¥9,207	¥14,233

公共交通の活性化の推進 ～市内電車環状線化事業～

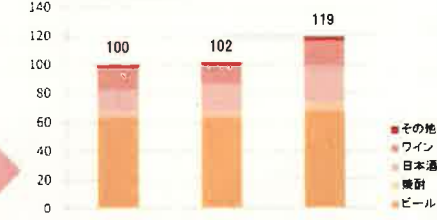
<<富山ライトレールの整備効果>>

- 環状線利用者は買い物を目的とした外出機会が増加するとともに、ついでに増えた目的として飲食の割合も高くなっている(ライフスタイルの変化)。

【外出機会が増えた目的】
<<H23市内電車利用者へのアンケート調査より>>



【中心市街地にある飲食店における酒類販売額の推移】
(H21を100とした割合)】



まちなかでお酒を楽しむ人が増加



公共交通の活性化の推進 ～路面電車の南北接続～

平成26年度末 北陸新幹線開業

数年後の北陸本線等の高架化を踏まえ、南北のLRT(富山ライトレール・市内電車環状線)を接続

- ・2013. 4.26 軌道運送高度化実施計画の認定
- ・2013.12.13 軌道工事施行認可



世界に類を見ない、新幹線と平面LRTの接続を計画

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -21-

公共交通の活性化の推進 ～自転車市民共同利用システム～

《自転車市民共同利用システム》

市内各所に設置された「ステーション」から、自由に自転車を借りて、任意のステーションに自転車を返すことができる、新しいコミュニティサイクル。

- 事業目的
 - ①CO2排出量の削減
 - ②中心市街地の活性化と回遊性の強化
- ステーション設置箇所
 - 中心市街地地区に17箇所（うち2箇所H26.3.30増設）
- 利用状況（平成22年3月20日～平成26年3月31日）
 - ・延べ利用回数：169,348回（1日平均：114.97回/日）
 - ・累計登録者数：4,221人
 - （定期パス：979人、7日パス・1日パス等：2,424人）

平成20年度
国(環境省)
環境保全型
地域づくり
推進支援事業
135,000千円



公共交通網との相互活用によりまちなか移動の利便性を向上



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

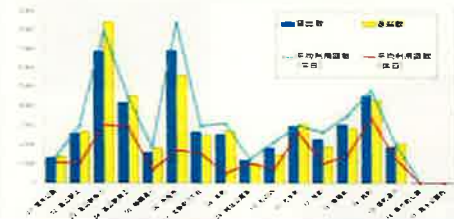
FUTURE CITY TOYAMA -22-

公共交通の活性化の推進 ～自転車市民共同利用システムの利用状況～

月別利用状況(供用開始時～H26年3月)

運賃回数 (供用開始時～)	年度	月												供用開始時 からの累計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
延べ 利用回数	H22	5,374	3,403	4,258	3,834	3,941	3,894	3,924	2,877	1,923	663	1,979	2,442	169,348
	H23	3,361	3,582	4,601	4,464	4,803	4,245	4,483	3,829	1,972	1,233	1,343	2,765	
	H24	3,510	3,966	4,598	4,999	5,343	4,946	5,197	3,179	1,729	1,545	1,830	3,642	
	H25	3,470	4,765	5,002	4,773	4,770	4,871	4,929	3,152	2,619	2,404	2,218	2,900	
	H26	128	110	142	124	127	130	127	98	62	21	71	79	
1日平均 利用回数	H22	128	110	142	124	127	130	127	98	62	21	71	79	115.0
	H23	112	116	153	144	148	142	145	128	64	40	46	89	
	H24	117	128	153	161	172	165	168	106	56	50	65	117	
	H25	116	154	167	154	154	162	159	105	84	78	79	94	
	H26	0.95	0.81	1.05	0.92	0.94	0.96	0.94	0.71	0.48	0.16	0.52	0.58	
回転数	H22	0.83	0.86	1.14	1.07	1.10	1.05	1.07	0.95	0.47	0.29	0.34	0.66	0.85
	H23	0.87	0.95	1.14	1.19	1.28	1.22	1.24	0.78	0.41	0.37	0.48	0.87	
	H24	0.86	1.14	1.24	1.14	1.14	1.20	1.18	0.78	0.63	0.57	0.69	0.69	
	H25	0.85	1.14	1.24	1.14	1.14	1.20	1.18	0.78	0.63	0.57	0.69	0.69	
	H26	10.57	6.54	8.06	7.38	7.98	7.75	7.80	8.30	7.78	8.46	7.54	7.42	
平均 利用時間	H22	8.16	7.76	7.68	8.16	8.15	8.46	7.65	8.91	9.08	8.21	8.66	8.01	8.55
	H23	8.69	9.09	8.49	8.12	8.13	9.96	9.08	7.89	7.63	7.74	7.57	8.48	
	H24	8.76	8.56	8.96	8.65	8.22	8.52	8.66	9.18	8.56	8.41	8.41	8.41	
	H25	8.76	8.56	8.96	8.65	8.22	8.52	8.66	9.18	8.56	8.41	8.41	8.41	
	H26													

ステーション別利用状況(H25年4月～H26年3月)



時間帯別利用者数(H25年4月～H26年3月)

時間帯	月曜～金曜日		土曜日、日曜日	
	利用回数	利用率	利用回数	利用率
時間帯別利用者数 (6時～10時)	12,969	34.4%	996	18.8%
時間帯別利用者数 (10時～17時)	8,918	23.7%	2,422	45.8%
時間帯別利用者数 (17時～22時)	14,612	38.8%	1,479	28.0%
時間帯別利用者数 (22時～翌6時)	1,183	3.1%	392	7.4%
小計	37,682	100%	5,289	100%

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -23-

中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進

《都心及び公共交通沿線居住の推進》

- ①まちなか居住推進 ②公共交通沿線居住推進

公共交通沿線等への居住を推進するため、良質な住宅の建設事業者や住宅の建設・購入する市民に対して助成

都心地区(約436ha)

【まちなか居住推進事業(H17.7～)】
 <事業者向け>共同住宅:100万円/戸
 <市民向け>戸建住宅:50万円/戸 等
 実績:702件 1,417戸(H17.7～H26.3)

公共交通沿線居住推進地区(約3,357ha)

【公共交通沿線居住推進事業(H19.10～)】
 <事業者向け>共同住宅:70万円/戸
 <市民向け>戸建住宅:30万円/戸 等
 実績:438件 946戸(H19.10～H26.3)

<路線> 鉄軌道全て(6路線)
 頻度の高いバス路線(13路線)
 (1日概ね60本以上(往復))

<エリア> 用途地域内における駅誘集、バス停留
 (圏域) 鉄軌道駅間は500m
 バス停留間は300m



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -24-

中心市街地や公共交通沿線への機能集積の推進

《中心市街地の活性化》

中心市街地活性化事業(第2期中心市街地活性化基本計画に位置付けた25事業)
中心市街地の魅力を高めることで、まちなか居住を推進

三本柱

公共交通や自転車・徒歩の利便性の向上

富山らしさの発信と人の交流による賑わいの創出

質の高いライフスタイルの実現



西町南地区複合施設整備事業



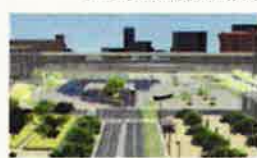
富山駅路面電車南北接続事業



中心市街地
コミュニティバス運行事業



富山城址公園整備事業



富山駅付近連続立体交差事業

- ・富山駅周辺地区土地区画整理事業
- ・まちなか子育て支援施設整備事業
- ・くすり関連施設整備事業

など25事業

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -25-

コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進

《太陽光発電システム設置補助事業》

太陽光発電システムの新規設置者に対して、1件50,000円を補助を行う。

《補助制度の変遷》

平成12年度 設置補助事業 開始(平成14年度から 旧八尾・山田地区開始)
平成17年度 新エネルギー財団補助終了
平成18年度 市単独で補助
平成21年1月13日 国・県の補助制度が復活(国:7万円/kW、県:一律5万円)
平成21年7月1日 設置促進補助事業 開始
平成26年3月31日 国・県の補助事業終了 市は継続



富山市住宅用太陽光発電システム設置補助制度における補助金交付件数

富山市 (旧八尾・山田含)	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	累計
各年度 設置件数(件)	10	21	44	63	40	113	126	80	54	267	356	541	533	644	2,892
各年度 出力合計(kW)	36.1	77.7	171.6	257.8	171.9	477	499	274.5	191	1,125.9	1,495.9	2,371.9	2,413.1	3,327.5	12,890.9

5,197.3t-CO2を削減

《太陽光発電システム設置促進補助事業》(平成21年度~平成23年度)

太陽光発電システムを新規に設置した方に対して、電力会社への余剰電力の売電量に応じて、設置後3年間の補助を行う。

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -26-

コンパクトなまちづくりと一体となったエコライフの推進

《富山市省エネ設備等導入補助金》

住宅の省エネ化とバイオマス資源の地産地消を推進するため、今後普及が望まれる省エネ設備等の設置者に対して補助金を交付。

【3万円の補助】

太陽熱利用システム

太陽熱を給湯・冷暖房に利用するシステム。水や不凍液などを熱媒として間接的に熱交換する「ソーラーシステム」タイプのもの



エコウィル

(家庭用ガスエンジン給湯器)

都市ガスやLPガスを燃料とするガスエンジンで発電を行い、その際に発生する排熱を給湯などに利用するシステム



【5万円の補助】

エネファーム

(家庭用燃料電池)

都市ガスやLPガス、灯油などから燃料となる水素を取り出し、空気中の酸素と反応させて発電するシステム



地中熱利用システム

地下の安定した温度の「地中熱」を利用し換気を行い、室内と外気の温度差の緩和と空気の浄化を行うシステム



ペレットストーブ

木質ペレットを燃料とするストーブ
※事業所も対象



蓄電池

太陽光発電等で発電した電気を蓄電し、繰り返し使用できる電池



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -27-

コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進

《小水力発電の導入》

地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入

平成22年度 工事(2カ年)
平成23年度 運転開始

環境学習やエコツアーの拠点施設として活用を図る



常西公園



東町・東新町公民館

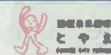
	常西公園	東町・東新町公民館
水車形式	開放型下掛	S型チューブラ
使用水量(m ³ /s)	0.8	2.5
有効落差(m)	2.0	4.48
最大出力(kW)	9.9	88
年間発電量(kWh)	84,300	689,200
年間電力使用量世帯換算(軒)	23	191
CO2削減効果(t-CO2/年)	46.8	382.5



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA -28-

コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進



《富山太陽光発電所の建設》

新エネルギー教育、普及啓発のシンボルとして活用

富山市が誘致

北陸電力(株)が太陽光発電施設を市有地に建設

発電出力:1メガワット
(1,000キロワット)

富山市

平成21年度 調整・公募
平成22年度 着工・完成
平成23年度 運転開始

側面的な支援

北陸電力株式会社

富山太陽光発電所の発電量は、約250軒分の年間電気使用量に相当。これによりCO2排出量を年間約300トン削減可能!



コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進



《バイオマス燃料の導入》

CO2の削減とバイオマス資源の地産地消を推進

環境保全型地域づくり
推進支援事業費(環境省)
215,000千円



林地残材、間伐材
利活用率 5% → 75%(目標)
(バイオマスタウン構想より)

製材端材・樹皮等
利活用率 65% → 90%(目標)



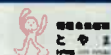
木質ペレット製造施設
(平成22年3月25日竣工)

年間1,500tのペレットを生産可能で、木質ペレットを使用した場合の年間CO2削減量は1,832t-CO2。

H22年度ペレットボイラー設置



コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進



《市有施設の屋根貸し・市有地の土地貸し事業》

民間事業者への市有施設の屋根貸しや市有地の土地貸しにより太陽光発電事業を実施。行政としては未利用財産の有効活用、事業者としては発電による収益や環境・社会貢献による副次効果が期待。

体育文化センター (H25.7稼働)

発電規模:180kW
年間発電量:157,300kWh
年間使用料:180,000円



八尾健康福祉総合センター (H25.5稼働)

発電規模:49.4kW
年間発電量:43,500kWh
年間使用料:119,700円



コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進



《市有施設の屋根貸し・市有地の土地貸し事業》

カドミ汚染田客土母材採土跡地(H26.10稼働)

カドミ汚染田の復元のための採土跡地(市有地)に、民間事業者によりメガソーラーを整備(平成25年度8月に公募)
使用面積:28,662㎡
発電規模:1,260KW
年間使用料:762,002円



富山市民芸術創造センター(H26.7稼働)

富山市民芸術創造センター(市有地)に、民間事業者によりメガソーラーを整備(平成25年11月に公募)
使用面積:9,688.63㎡
発電規模:1,000kW
年間使用料:3,656,380円



コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進

《「チームとやまし」推進事業》

市民・企業等が独自の目標をたて、チームを結成し、地球温暖化防止行動に取り組む

352チーム 19,787人

平成26年3月末登録状況

- 市民・企業**
- 地球温暖化について「知る、広める」
 - 温暖化防止のためにできることを「考える、話し合う」
 - 自主的に地域や職場でチームを結成して「参加する」



- 市(事務局)**
- 広報、メンバー募集活動
 - PR、イベント開催、表彰
 - 情報交換、メンバー同士のコーディネート

【「チームとやまし」の重点5項目】

- I 省エネルギー対策の推進
- II 運輸・交通対策の推進
- III 新エネルギー等の活用
- IV 5Rの推進 (Reduce:抑制, Reuse:再利用, Recycle:再生利用, Refuse:断る, Repair:修理)
- V 森林保全・緑化の推進

累積削減実績 17,403t-CO2

H25年度の主な取組

- チームエコゼロ事業
- 緑のカーテン事業
- O3R推進スクール事業



コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進

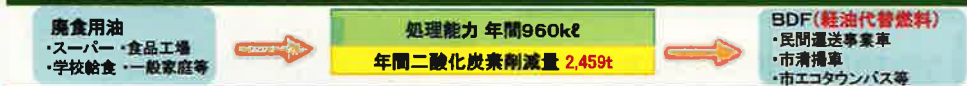
《「廃棄物の有効活用 ~エコタウンの推進~》



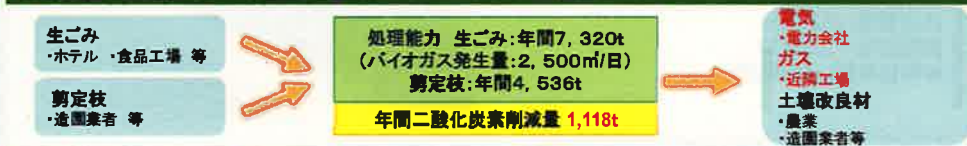
コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進

《「廃棄物の有効活用 ~エコタウンの推進~》

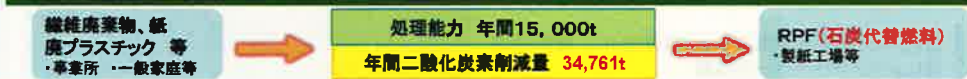
(1) 廃食用油リサイクル施設 (富山BDF株式会社)



(2) 生ゴミ及び剪定枝リサイクル施設 (富山グリーンフードリサイクル株式会社)



(3) 難処理繊維及び混合廃プラスチックリサイクル施設 (株式会社エコ・マインド)



(4) 廃棄物エネルギーセンター (株式会社アイザック)



コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進

《「廃棄物の有効活用 ~エコタウンの推進~》

家庭の廃食用油(使用済みのてんぷら油)を回収
平成21年8月から市内全地域で実施

平成25年度(62地区)廃食用油回収量
⇒約11.24t

富山市エコタウン産業団地内の廃食用油リサイクル施設において、軽油代替燃料であるバイオディーゼル燃料(BDF)となり、市の清掃車やバスなどに使用



環境にやさしい循環型のまちを目指して

<p>回収する油</p>	<p>○家庭で使用した食用油(家庭から出たものに限ります) (サラダ油、コーン油、菜種油、ゴマ油、大豆油等 植物を原料とした食用の油)</p>
<p>回収できない油</p>	<p>×事業系(飲食店、小売店、食品工場)からの廃食用油 ×ラード等の動物油、機械油、エンジンオイル、灯油、 軽油、ガソリン、シンナー、塗料等</p>

コンパクトなまちづくりと一体となったエコ企業活動の推進

《「廃棄物の有効活用 ～エコタウンの推進～」

家庭からの生ごみを回収（13地区で実施）

富山市エコタウン産業団地内の生ごみリサイクル施設において、バイオガスを作り、そのガスを利用して発電する

家庭からの生ごみ



調理くず

野菜・果物くず

平成18年度…五番町地区
 平成19年度…清水町、水橋中部地区
 平成20年度…星井町、水橋東部地区
 平成21年度…船曲輪、八人町地区
 平成22年度…愛宕、安野置地区
 平成23年度…西田地方地区
 平成24年度…柳町地区
 平成25年度…東部地区
 平成26年度…堀川地区

家庭一般ゴミによるバイオガス精製量及び発電量



平成25年度(12地区)生ごみ回収量

⇒約 765 t

CO2削減量に換算すると…

⇒約 260 t

生ごみを発酵させて
バイオガスを精製

バイオガスを利用して発電
⇒487,150kWh
(平成25年度実績)



「生ごみ」だけを
回収してリサイクル



一般家庭約1,600世帯/月の電力量

環境未来都市の概要と取組状況

環境未来都市選定

新成長戦略(平成22年6月閣議決定)に位置づけられた「21の国家戦略プロジェクト」の一つ

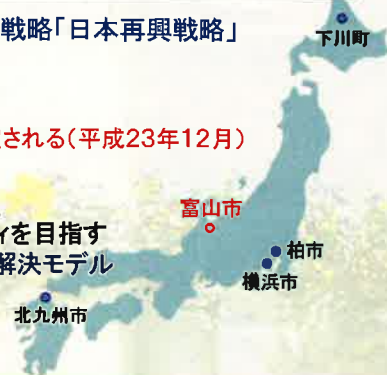
国が戦略的取組を行う「環境未来都市」を選定し、関連予算の集中や規制改革等の支援を講ずることにより、環境・超高齢化等の対応の面で、世界に類のない成功事例を創出するとともに、その成功事例を国内外に普及展開することを通じて、新産業の創出や地域活性化など、我が国全体の持続可能な経済社会構造の実現を目指すもの。

※平成25年6月に閣議決定された新たな成長戦略「日本再興戦略」にも位置づけられた

富山市を含む計5都市(被災地域を除く)が選定される(平成23年12月)

選定理由

LRTなどの公共交通を核としてコンパクトシティを目指す戦略的な提案であり、地方都市の抱える課題の解決モデルになり得る



環境未来都市構想 ～概要と基本コンセプト～

環境・超高齢化対応等に向けた 人間中心の新たな価値を創造する都市

- ① 「誰もが暮らしたいまち」、「誰もが活力あるまち」を実現
- ② 人、もの、金が集まり、自律的に発展できる持続可能な社会経済システムの構築
- ③ ソーシャルキャピタル(社会関係資本)の充実等による社会的連帯感の回復
- ④ 人々の生活の質を向上させることが究極的な目的



計画概要

<地方都市の現状と課題>

人口減少、超高齢化、厳しい財政運営、維持管理費等行政コストの増大 etc

これらに対応できる地方都市の1つの未来像を提示

1. 公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり

公共交通の活性化、中心市街地や公共交通沿線での都市機能の集積 など

2. 質の高い魅力的な市民生活づくり

中心市街地の活性化、歩いて暮らせるまちづくり、ソーシャルキャピタルの醸成 など

3. 地域特性を十分に活かした産業振興

地場産業である菓業の最大限の活用、再生可能エネルギーの活用、企業誘致 など

**サステナブル(持続可能)な都市を創出することにより、
「誰もが暮らしたい・活力あるまち」を実現**

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-40-

推進体制 <産民学・富山市で組織するコンソーシアムによる事業の推進>

内閣官房「環境未来都市」推進ポード

助言・支援

富山市環境未来都市アドバイザリーグループ

助言・支援

富山市環境未来都市推進協議会

会長(プロジェクトマネージャー): 富山市長

事務局: 富山市

環境部会

プロジェクトチーム
コンソーシアム

プロジェクトチーム
コンソーシアム

高齢化対応部会

プロジェクトチーム
コンソーシアム

プロジェクトチーム
コンソーシアム

産業振興部会

プロジェクトチーム
コンソーシアム

プロジェクトチーム
コンソーシアム

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-41-

将来像の実現に向けた主な取り組み内容(全15事業)

再生可能エネルギーを活用した農業活性化

薬用植物栽培工場の構築

ヘルシー交流タウンの形成

環境

超高齢化

公共交通の活性化

歩いて暮らせるまちづくり

地域コミュニティ主体の交流空間

中心市街地・公共交通沿線での都市の諸機能の集積

薬用植物生産システムの構築

再生可能エネルギーの活用

人との触れ合いによる介護予防・在宅支援サービス

農業・森林・林業

農工商連携による富山ブランドの育成

森林資源の有効活用による林業の自立モデルの構築

里山再生を担う人材育成拠点の整備

農商工連携による多様なビジネス推進

LRTネットワークの形成

セーフ環境スマートモデル街区の整備

エコ活動の推進
を促した商業施設

パリアフリー、ユニバーサル
デザインを推進

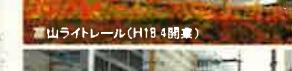
ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-42-

公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり ~LRTネットワークの形成~

人と環境に優しく「絆」を育むLRTネットワーク



ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-43-

質の高い魅力的な市民生活づくり ～高齢者の外出機会の創出～



《孫とおでかけ支援事業》

高齢者の外出機会を促進するとともに、世代間交流を通じて家族の絆を深めるため、祖父母と孫と一緒に来園(来館)された場合に入園料(観覧料)を全額減免



期間
平成24年7月～

対象施設
ファミリーパーク、科学博物館、天文台、佐藤記念美術館、民俗民芸村、八尾おわら資料館、ジップライン・アドベンチャー立山※、エコリンク等
(※ Gondola利用料は利用者負担)

対象者
一緒に入園される祖父母と孫・曾孫(年齢及び居住地の制限なし)

実績(ファミリーパーク、科学博物館等の12施設利用者数)
H23: 616, 430人
H25: 645, 855人(うち祖父母・孫50, 129人)
入園(館)者数が約4.8%増加

質の高い魅力的な市民生活づくり ～高齢者の外出機会の創出～

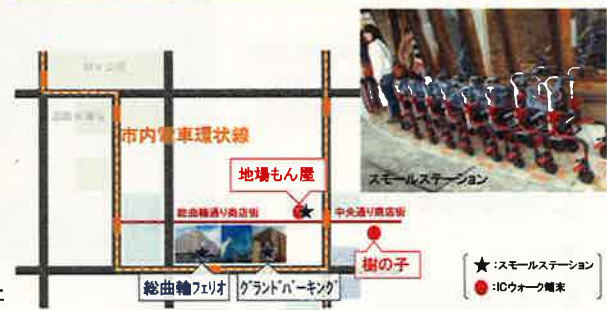


《ICウォーク事業(H25.7.12～)》

中心商店街に設置した端末にICカードをかざすとまちなかに出た頻度と歩いた距離に応じてポイントを付与。貯まったポイントはイベント通貨として利用でき、**高齢者等が楽しみながら歩くことができる仕組みを構築。**



○端末設置場所：地場もん屋総本店、まちなかサロン樹の子(2点間の距離は約180m。歩幅を60cmとすると片道300歩。)



参加者の声
「まちなかに出かける機会が増えた。知人に会う機会も増え、おしゃべりするのが楽しい。」

質の高い魅力的な市民生活づくり ～ソーシャルキャピタルの醸成～



《街区公園コミュニティガーデン事業》

中心市街地の街区公園において、新たにコミュニティガーデンを整備し、**高齢者の外出機会や生きがいを創出するとともに、地域コミュニティの再生を図る**



＜整備箇所＞
芝園町二丁目公園
南新町公園
中野新町公園

＜供用開始＞
平成25年4月(3箇所)

＜面積＞
1箇所あたり 50㎡

質の高い魅力的な市民生活づくり ～歩いて暮らせるまちづくり～



《富山まちあるきICTコンシェルジュ事業》

駅やまちなかへWi-Fiスポットやデジタルサイネージ端末等のICTインフラを整備し、まちあるき情報等を配信するとともに、歩行者動態情報の収集・分析を行い、まちづくりへ活用



まちあるき情報を配信し、まちの賑わいを創出
歩行者動態情報を分析し、データをまちづくりへ活用

質の高い魅力的な市民生活づくり ～文化度の高い暮らしの創生～



《花Tramモデル事業(平成24年11月～)》

華やかで明るい空間を演出し、「花で潤うまち」を創出するため、指定の花屋で花束を購入し、市内電車等に乗車された方々の運賃を無料化

期間

平成24年11月～

内容

- ・花束購入者に無料乗車券を進呈
- ・降車時に運転手に花束を提示し、無料乗車券を渡すと運賃が無料に

花屋

市内電車沿線等の計22店舗

実績

利用者数:990人
(H24.11.18～H26.3.31)
※H25.4～H25.8の期間は除く



地域特性を十分に活かした産業振興 ～牛岳温泉熱等を活用した農業の6次産業化～



高齢化や過疎化が進む山田地域に市が植物栽培工場を整備。「エゴマ」の生産、加工、流通販売までを一体的に行い、**地域の特産品化を図るとともに、健康長寿都市を目指す。**

(※1) 隣種菜堂:エゴマの6次産業化に取り組むため、民間4社が出資し設立した法人

エゴマ

シソ科に属する一年草の薬用植物。食すると十年長生きできるといわれから「じゅうねん」とも呼ばれる。



▲植物工場イメージ(H24設計、H25整備)

事業効果

- 新たな特産品の創出を契機とした地域振興・地域活性化により、**農山村の暮らしを維持**
- 植物工場において、地元の高齢者を雇用し、**高齢者の生きがいを創出**
- 有用な成分を含むエゴマを病院や学校等の給食へ活用することにより、**健康長寿都市を実現**
- 露地栽培への展開(H25～)による**耕作放棄地の解消**

地域特性を十分に活かした産業振興 ～再生可能エネルギーを活用した農業活性化～



様々な落差、流量の農業用水に対応し、かつ簡易に設置可能な自給用小水力発電システムを開発し、その発電電力を農業および農山村で活用(施設への電力供給、EVの導入等)する自立型の農業・農山村モデルを確立する

産学の技術



垂直流水車



高効率電圧変換装置

普及展開に向けた課題

- ① 農業用水を利用する際の関係機関・地元団体との調整
- ② 発電した電気の地域における有意な活用方法

行政(官)が協力(調整)

地元中学校との協働授業

課題①を解決

地域(民)が協力(アイデア)

課題②を解決

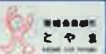
「産学官民」の連携で課題解決

H25年度以降、市内2か所で実証実験(予定)

＜将来イメージ＞



地域特性を十分に活かした産業振興 ～再生可能エネルギーを活用した富山型農村活性化モデルの国際展開～



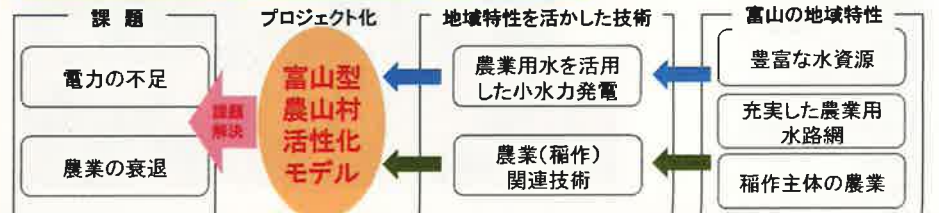
「電力不足」や「農業衰退」の課題を解決するため、富山の地域特性を活かした「農業用水を活用した小水力発電」及び「農業(稲作)関連技術」を用い、「富山型農村活性化モデル」の国際展開を図る



ユネスコ世界文化遺産にも登録されるインドネシア共和国バリ州タバナン県ジャタルツイの農田



平成26年3月21日 インドネシア共和国バリ州タバナン県とプロジェクトの実施に関する協力協定を締結

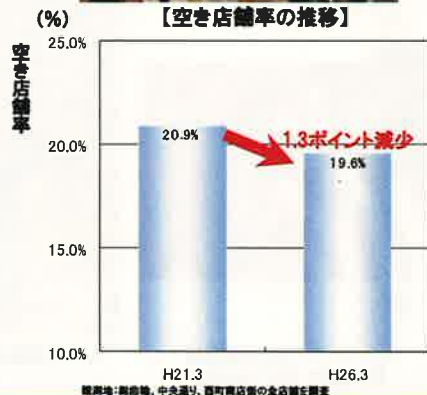
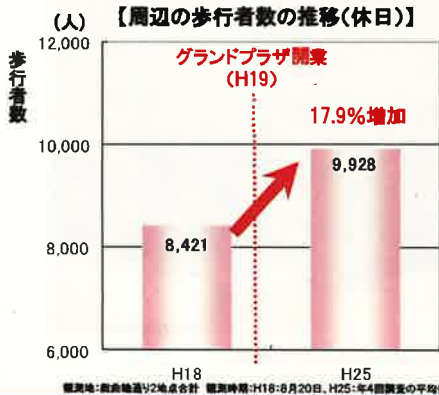


コンパクトなまちづくりの効果

コンパクトなまちづくりの効果 ～歩行者数と空き店舗～

■ 中心市街地の歩行者数が着実に増加
(H18→H25 17.9%増)

■ 中心市街地の空き店舗が減少
(H21→H25 1.3ポイント減)



※周辺地:駅前地区V2地点合計 観測時期:H18:8月20日、H25:年4回調査の平均値

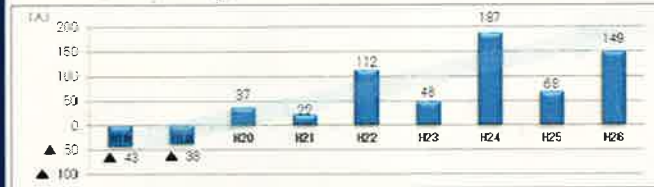
※周辺地:駅前地区、中央通り、百貨商店街の全店舗を調査

コンパクトなまちづくりの効果 ～転入人口の増加～

■ 中心市街地と公共交通沿線居住推進地区の社会増減(転入-転出)の推移

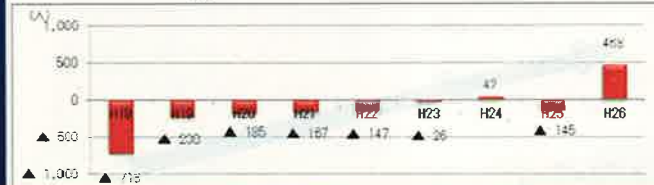
・中心市街地では平成20年より、**転入超過を維持**しており、**平成26年は、前年と比較し、超過数が増加**している。

【中心市街地(都心地区)の社会増減(転入-転出)の推移】



・公共交通沿線居住推進地区では、**転出超過が減少傾向**にあり、**平成24年、平成26年は転入超過**となった。

【公共交通沿線居住推進地区の社会増減(転入-転出)の推移】



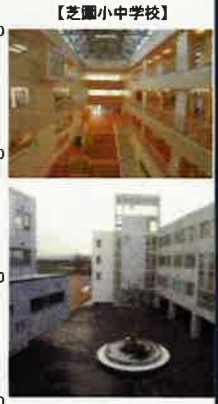
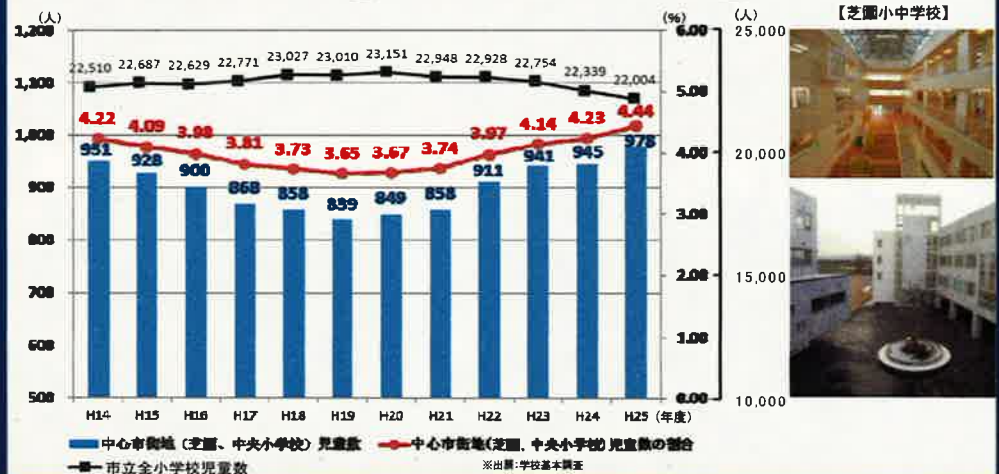
ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

コンパクトなまちづくりの効果 ～中心市街地の小学校児童数の増加～

・中心市街地の小学校児童数が **139人(16.6%)増加** (H19-H25)

・富山市全体に占める中心市街地の小学校児童の割合が **0.8ポイント増加** (H19-H25)

【富山市立小学校児童数と中心市街地(芝園、中央小学校)児童数の推移】

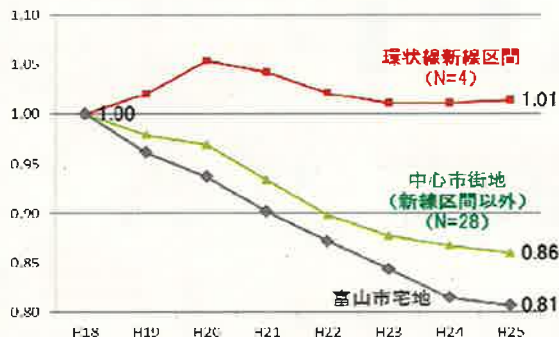


ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

コンパクトなまちづくりの効果 ～地価の維持～

- 環状線新設区間の沿線では平成18年度以降地価が、ほぼ横ばいで安定している。
- 新設区間以外の環状線沿線の地価は、平成19年度以降下落しているが、富山市宅地の平均と比較すると下落率が緩やかである。

【中心市街地の地価変動】



中心市街地エリア

FUTURE CITY TOYAMA

-55-

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

富山市のまちづくりに対する国際的な評価

コンパクトなまちづくりの効果 ～人口の維持力～

- 富山市の総人口は、日本及び富山県全体と同様に減少傾向にある。
- 富山市の人口減少率は、全国及び富山県全体と比較すると小さい。
- 富山市は、高齢化に伴う自然減(出生-死亡)により、人口が減少しているが、社会増(転入-転出)である。

【人口増減等の比較(平成24年4月1日～25年3月31日までの1年間)】

	人口(人)	増減数(人)	増減率(%)
全国(日本)	126,393,679	▲266,004	▲0.21
富山県	1,081,665	▲5,879	▲0.54
富山市	415,407	▲816	▲0.20
(参考)東京都	12,757,445	58,174	0.46

※外国人含まず

【富山市の人口動態(平成24年4月1日～25年3月31日までの1年間)】

出生(人)	死亡(人)	転入等(人)	転出等(人)	合計(人)
3,297	4,413	10,073	9,773	▲816

※外国人含まず

1,116人の自然減

300人の社会増(転入超過)

※出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数(25.8.28発表)」、富山市資料

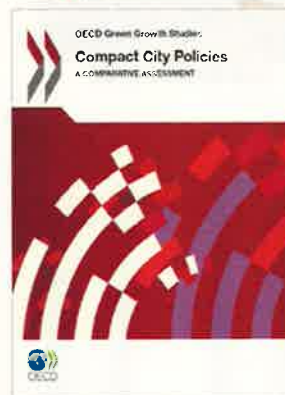
ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-56-

コンパクトなまちづくりへの国際的な評価 『コンパクトシティ政策報告書』

平成24年6月、OECD(経済協力開発機構)が取りまとめた『コンパクトシティ政策報告書』の中で、本市の取り組みが先進5都市(メルボルン、バンクーバー、パリ、ポートランド、富山市)のひとつとして取り上げられる



コンパクトシティ政策報告書
『Compact City Policies』



OECD国際会議(2012.6.13 フランスOECD本部)

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-57-

コンパクトなまちづくりへの国際的な評価

持続可能な都市経営やコンパクトなまちづくりが評価され、**国際会議への招聘**などが増加している

<国際会議等での事例発表>

- ・OECD第5回首長と閣僚による円卓会議(フランス)
- ・地域経済発展のための世界会議(ブラジル)
- ・OECD高齢社会における持続可能な都市政策プロジェクト専門家会合(フランス)
- ・自転車利用のための地域・街づくり推進協議会第20回会議(フランス)
- ・国際公共交通連合第60回世界大会(スイス)
- ・第7回アジアEST地域フォーラム(インドネシア)
- ・OECD国際会議(フランスOECD本部)
- ・Eco Mobility & World Bike Festival 昌原2011(韓国)
- ・2011光州 UEA環境展示会(韓国)
- ・OECDワークショップ(カナリヤ諸島)
- ・ローマ大学(イタリア) (平成26年3月末現在、主な発表内容はまちづくりのもの)
- ・国際連合 気候サミットにおける「エネルギー効率改善都市」特別セッション(ニューヨーク)



第7回アジアEST地域フォーラム(2013.4.24)



OECD・富山市 都市の国際ラウンドテーブル(2014.10.17)

<国際会議の開催>

・『OECD・富山市 都市の国際ラウンドテーブル』を開催

主催:富山市、OECD 開催日:平成26年10月17日

議題:高齢社会に対応した持続可能な都市政策について

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-58-

課題と今後の取組

コンパクトなまちづくりへの国際的な評価<SE4ALLエネルギー効率改善都市>

「環境未来都市」や「環境モデル都市」として取り組んできた実績や、将来的にエネルギー効率の改善が期待できる点などが評価され、平成26年9月、**国際連合のSE4ALL (Sustainable Energy for All:万人のための持続可能なエネルギー)**における「**エネルギー効率改善都市**」に、日本で唯一選定された。

<国連SE4ALL特別セッションへの出席>

■日時・場所

平成26年9月23日(火)9:30~11:30

国連本部ダグ・ハマースホルド講堂

■選定都市

富山市(日本で唯一)、メキシコ市、ワルシャワ市、マニラ市、ティンブー市、ほか世界の都市や地域

■SE4ALLとは

潘基文・国連事務総長が二期目の優先課題の一つとして掲げられたプロジェクト

2030年までに、

- ①普遍的なエネルギーへのアクセス達成
- ②世界全体でのエネルギー効率の改善ペースを倍増
- ③世界全体での再生可能エネルギーのシェア倍増の3つの目標の達成を目指すもの。



国連会合での市長スピーチ



ユムクラールSE4ALL担当国連事務総長特別代表、江・外務省地球環境問題担当大使との懇談

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-59-

課題と今後の取組

環境モデル都市の課題

- ・財源の確保
- ・CO2削減に対する市民・企業の意識改革
- ・民間企業との協働・連携

環境未来都市の課題

- ・財源の確保
- ・規制緩和の促進
- ・民間企業の参画促進
- ・成功事例の普及展開

SE4ALLエネルギー効率改善都市の課題

- ・財源の確保
- ・エネルギー効率改善に対する市民・企業の意識改革
- ・世界の都市・地域の意識改革
- ・エネルギー効率改善の見える化

今後の取組

- ・財源確保、規制緩和等の実現に向けた関係省庁への要望
- ・タウンミーティング及び市役所出前講座の開催による市民に対する環境意識啓発
- ・環境未来都市推進国際フォーラム、環境未来都市推進協議会等において、自治体及び企業間の交流を促進・連携強化
- ・国際連携の下で、各計画(アクションプラン)の着実な推進

ソーシャルキャピタルあふれる持続可能な付加価値創造都市を目指して

FUTURE CITY TOYAMA

-60-